

2005年3月31日発行

北海道情報大学 学内報

発行：北海道情報大学

〒069-8585

江別市西野幌59-2

TEL 011-385-4411

FAX 011-384-0134



# ななかまど Vol.33



## 目次

- 学位記授与式学長告辞……………2～3
- 退職教員あいさつ……………4～5
- 学位記授与式……………6
- 情報学科 優秀卒業論文表彰……………7
- 「授業評価」アンケート調査……………8～9
- 中国南京大学王書記一行来学……………10
- カリフォルニア大学ミラデークター来学……………10
- 「デジタル作品制作講座」作品発表会……………11
- 新カリキュラム紹介……………12～14
- ビジネスプレゼンテーションコンテスト……………15
- e-Learning「無限大キャンパス」紹介…16～17
- ふるさとCM大賞技術賞受賞……………18～19
- ゼミ紹介……………20
- 平成17年度課外活動団体紹介……………21
- 同窓生のページ……………22
- 卒業生の就職活動を振り返って……………23
- 主要行事等……………24

写真：エソリス(撮影・浦白町まで)



# 学位記授与式の学長告辞

学長 久野 光朗

本日ここに晴れて経営情報学士・情報メディア学士・経営情報学修士の学位記を授与された皆さん、本学の教職員・在学生を代表して、「おめでとう」と申し上げます。また、皆さんを今日まで養い、育て、教えてこられた御両親をはじめとする保護者の方たち、諸先生、その他の関係者各位に対しても、心から祝意とともに敬意を表させていただきます。

皆さんは北海道情報大学経営情報学部の第13回、同通信教育部ならびに同大学院研究科の第8回、そして情報メディア学部の第1回の卒業生および修了生です。その内訳は、通学生では経営学科が83(うち女子12)名・情報学科が110(うち女子18)名で、合計193(うち女子30)名、情報メディア学科が合計156(うち女子24)名、通信教育部は正科生Aが49・正科生Bが400名で合計449(うち女子82)名、大学院修士課程は会計情報学系列1名・情報処理学系列が2(うち女子1)名で合計3名です。なお、ここでひとこと付言しておきたいのは、すでにご承知のとおり、情報メディア学部が最初の卒業生を無事に社会へ送り出すことができたということです。情報メディア学部の卒業生諸君は第1回卒業生としての矜持(プライド)をもって活躍してもらいたい。

上述したとおり、本日は全部で約801名の卒業生・修了生を社会へ送り出す輝かしい日ではありますが、これまでの本学の発展に尽力してきた4人の教員も諸君たちと同様に3月末で本学を去ることになりました。壇上に座っておられる3人の先生と小生の4人です。3人の先生については、順次、簡単に経歴を紹介し、感謝の気持ちを示すことにしたいと思います。

まず伊藤佐智子先生です。先生は山形県出身ですが、東京都立大学大学院理学研究科博士課程を終えられ、1977年に理学博士号を取得されています。北海道大学医学部助手を経て、本学には1998年に助教授として赴任され、2001年、情報メディア学部の発足とともに同学部の教授にられました。先生の専門分野はデータベース・医療情報学ですが、その方面での国際会議に出席して



積極的に発表の機会を持たれ、また学内活動でも各種委員会委員としてご尽力いただきました。どうも先生ありがとうございました。

つぎに宇都宮芳明先生です。先生は江戸っ子ですが、東京大学大学院人文科学研究科を修了されて同大学教養学部助手をつとめられたのち、北海道大学文学部に34年間奉職され、学部長の要職にもつかれました。その後、放送大学の客員教授を5年間つとめられ、1999年に本学へ赴任されました。先生の専門分野は哲学・倫理学であります。とくにカント哲学の日本における権威者の一人でありまして、当該分野において多くの優れた著書・論文を発表してこられました。また、先生には情報メディア学部の初代学部長として創設期の2年間にわたり御努力いただいたことも申し添えさせていただきます。どうも先生ありがとうございました。

ついで、尾崎弘之先生です。先生は道産子だと伺っておりますが、広島大学教育学部高等学校教育科国語専攻を卒業され、北海道滝川高校を皮切りに、道内各地の道立高校の教壇に立ち、札幌西陵高校校長を最後に、北海道教育研究所所長をつとめられ、その後、苫小牧駒沢大学国際文化学部教授を経て、2001年に本学経営情報学部教授として赴任されました。したがって、先生の本学での在任期間は4年と短いのですが、本学では先生の赴任された年に情報に関する教職課程が設置されたのでありまして、先生には創設者の一人として教育原理を担当していただいたことを忘れてはな



りません。どうも先生、ご尽力ありがとうございました。

さて、もう一人、小生ですが、自分のことは話しぶらいものです！ 小生は東京生まれの函館育ち、いわば準道産子です。一橋大学大学院商学研究科修士課程を終えて小樽商科大学へ赴任し、38年間奉職しました。専門分野は会計学——とくに会計の歴史です。1995年、大学院創設メンバーの一人として本学へ赴任しました。本学での在任期間はちょうど10年になりますが、1年弱の大学院研究科長・4年間の経営情報学部長・3年間の学長という管理職をつとめました。理事長をはじめ善意の教職員・学生たちに恵まれ、幸せな10年間だったと思います。皆さん、どうもありがとうございました。

ここからまた本題に戻ります。本年の学部卒業生の大部分は1982(昭和57)年生まれだと推察します。保護者の方たちも含めて、その1982年前後の社会・政治の動向を若干回顧してみましょう。そして、その20年余の世相に見られる歴史の連続と変化・不易と流行・変わらざるものと変わるものに注目してみることにしましょう。まず、1982・1983年は、パソコンとワープロが急速に普及しはじめた頃です。まさに、諸君はIT時代の申し子であったということが出来ます。当時、世界では国連などによる反核運動が頂点に達していました。今日またイラン・北朝鮮などによる核の脅威が問題になっていることを想起してみてください。さらに、わが国の教科書が「侵略」を「進出」とした記述に対して中国政府が強く非難していたのですが、これもまた今日につながっている問題です。しかし、東北新幹線(大宮—盛岡間)が開通し、さらに同年、上越新幹線も開通されたという明るいニュースは、本年、北海道新幹線の一部着工開始というところまで進んできました。われわれは、この歴史上の連続と変化という本質に対して、今後とも十分に理解を示し、意識を高めていくことが必要だと思えます。

最後に、社会へ巣立っていく諸君への「はなむけの言葉」として、『論語』(雍也第六)から孔子(B

C551—479)の次の言葉をプレゼントすることにしましょう。

「子曰、知之者不如好之者。好之者不如樂之者。」  
(これを知る者はこれを好む者にしかず。これを好む者はこれを樂しむ者にしかず。)孔子のことですから儒教——学問の修業について言っているものと推察されますが、その寓意を職業人の仕事に置き換えても差しつかえないのではないのでしょうか。

職業人として仕事を覚えることは必要不可欠ですが、できることならその仕事自体を好きになってもらいたいものですし、さらに理想を言えば、日々の仕事を義務と思わないで、楽しめるようになってもらいたいものです。そのような境地にまで達すれば、人生もまた至福の域に到達することができるのではないのでしょうか。たしかに、実社会は厳しく、理想と現実を一致させることは容易ではありません。しかし、すくなくとも次のことは言えるでしょう。理想のない人生は地獄だということです。常に理想を抱いて現実に立ち向かってください。せつに、諸君の大成を祈っています。





## 退職教員あいさつ

### 7年間を振り返って



情報メディア学部  
教授  
宇都官芳明

開学以来哲学を担当されていた河西章先生が退職され、平成10年4月、私が非常勤講師として哲学の授業を持つことになりました。ところが翌年5月、当時の今田事務局長から、情報メディア学部という新学部を創設するので、専任の教授としてこれに協力してほしいとのお話がありました。情報メディアにかんするIT技術はもちろんのこと、パソコンの使い方すらろくに知らない私にはとても無理と最初はお断りしたのですが、文科省には文科系の学部として申請すること、私が文科系の出身で都合がよいこと、それに私が平成元年開学の時にも少しお手伝いをしたことなどの事情が重なって、それではとお引き受けしました。今田さんの説得の熱意にほだされた形です。

それから2年間、開設にむけて審議会の各種審査や大学の实地調査がありましたが、無事切り抜け、平成12年12月、文科省から正式に設置が認可された時は、ほっとしました。開設とともに学部長となり、学科主任の中岡先生のご尽力を仰ぎつつ新学部の学内整備に努めてきましたが、学部長2年目の夏、憩室炎で緊急入院、4時間かけて患部を切除して小腸と大腸を繋ぎ直すという手術を受け、体

力が著しく低下し、学長に学部長の交替をお願いしました。いよいよ専門教育が本格化する時でもあり、新学部が以後井野学部長のもとで完成年度まで順調に発展を遂げたことは、皆さんご存じの通りです。怪我の功名という言葉がありますが、私の場合は手術の功名ということでしょうか。

開設後まだ4年ですが、いまや情報メディア学部は大学のなかで確固とした地位を占めるようになりました。私は今後もこの学部がますます発展していくことを確信しておりますし、また短い間でしたが、私が設立に関与した学部として、愛着もひとしおです。新学部も含めた大学のさらなる発展を心から念願しております。

### ななかまどに寄せて



情報メディア学部  
教授  
伊藤佐智子

今年は雪が多く通勤には難儀することもあり、ようやく春の日差しが強まり、卒業式も間近となりました。ちょうど1年程前に退職を願い出ましたところ、幸いにも希望





が叶いました。その時以降、毎日の登下校時には大学の門から並ぶななかまどの並木や落葉松の四季折々の変化を来年は観ることがないのかと寂しさを感じたものです。

北海道情報大学では豊かな自然に恵まれた環境の中、平成10年4月から7年間勤務してまいりました。平成13年には情報メディア学部が新設され、新入生に「私もフレッシュマンです」と挨拶した事を憶えています。その一期生とともに再び一緒に巣立つことになり、感慨深いものがあります。これからは大学を取り巻く社会環境もますます多様化することと思われまふ。卒業生、在校生の皆様には本学において学び、他ではまねのできない自分らしさを打ち出して進んで欲しいと思います。なお1、2年は非常勤講師として勤務する予定です。またお会いするときはどうぞよろしくお願いします。

## 退職にあたって



情報メディア学部  
特任教授  
尾崎 弘之

若者が持つ財産の一つに未来という時間の

豊かさがある。私達は、時間のある種の便利さから、過去、現在、未来の三つに区別して考えるが、この三つが一つであると考えられることも、容易に理解できよう。

説明するまでもないが、現在を決定するのは過去であり、同時に過去は現在の視点から意義づけられるのが常である。現在と未来の関係も同様である。現在のあり方が未来を大きく左右し、同時に未来をどう構想するかが現在のあり方を強く規定するからである。

ところで、未来という言葉の示す、漠とした遠い時間まで思いが及ばなくても、10年後20年後の、かくありたいという自分の姿を描くことは、それほど困難なことではないと思う。少なくとも、人生の「玄冬」を迎えている私などの中で、消しがたく残ってしまう、ある種のためらいなどはないはずである。それが若者の特権といえるのだから……。

夢や高い目標を持って未来を構想するとき、現在は未来へ連なり、その一瞬一瞬に明確な意味が付与される。新しい年度迎えた今、改めて自己の未来を思い描いてほしい。その視座から現在の自分を映しだしてほしい。そして、現在の自分が未来に連なる時間を生きているかどうかを考えてほしい。

過去を背負い、未来を包摂する現在を真剣に生きるとき、時間も君達の中で一つになることであろう。



# 平成16年度学位記授与式



3月18日(金)午前10時から、本学松尾記念館講堂において、平成16年度北海道情報大学学位記授与式が行われました。

今年度は、情報メディア学部の卒業生を初めて送り出す年でもあり、通学課程と通信教育部、更に大学院の合同で行われた式の模様は、会場に設置されたテレビカメラ4台により、保護者控室の201教室と204教室、そして全国の各教育センターに中継されました。

式は、厳粛なうちにも和やかな雰囲気の中行われました。その後、卒業記念写真撮影、学科等別学位記授与、体育館での卒業祝賀会と続き、学位記を手にした卒業生・修了生たちは、大学との



各学部の代表に学位記を授与

別れを惜しんでいました。

なお、学科等別学位記授与では、成績優秀者等の学生表彰も併せて行われました。



祝辞を述べる松尾理事長

- 卒業生
  - ・経営情報学部
    - 経営学科 83名
    - 情報学科 110名
  - ・情報メディア学部
    - 情報メディア学科 156名
  - ・経営情報学部 通信教育部
    - 経営学科 正科生A 49名
    - 情報学科 正科生B 400名
- 修了生
  - ・経営情報学研究所 3名

(総務課)



## 平成16年度 情報学科

# 優秀卒業論文発表者の表彰について

情報学科主任 中村 鎮雄

情報学科の公開卒業論文発表会は2月14日から3日間、二つの教室を使い午前と午後の部に分かれて行なわれ、無事終了しました。発表件数は114件ありました。専門ゼミナール担当教員による審査の結果、以下に示すように優秀賞9名、努

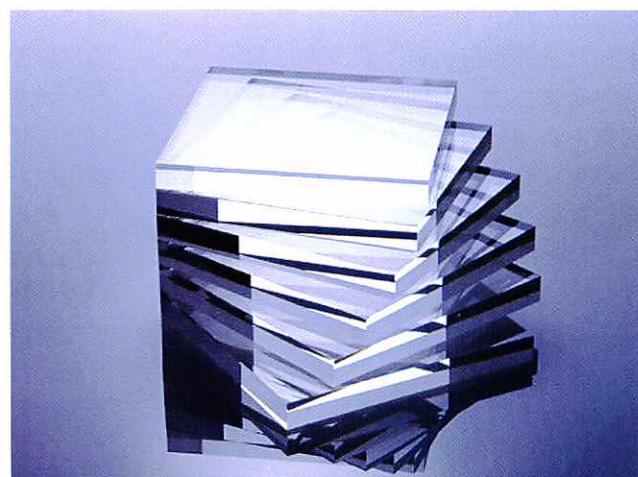
力賞7名を選考しました。下記の学生諸君は卒業式当日、学科の卒業証書授与式において表彰されることになりました。なお、氏名は順不同で表示しています。

### [A] 優秀賞

小笠原剛彦	研究表題 「 サブレットによる不動産物件表示システムの制作」
池田 祐亮	研究表題 「電卓」
桑田 皇太	研究表題 「Edit Distanceによる類似レポートの検出」
石田 佑介	研究表題 「Zバッファ法を用いた隠面消去プログラムの作成」
山口 美帆	研究表題 「3ds maxで歴史建造物の復元 -教材化への試み-
佐賀 一夫	研究表題 「Visual C#.NETを用いた教材ソフトの作成-視覚と多様性を考える」
阿部 涼一	研究表題 「複数ルールライフゲーム」
中村 佳祐	研究表題 「自然言語処理による情報検索エージェントの試作」
堀田 真理	研究表題 「生存闘争」

### [B] 努力賞

宮澤理恵子	研究表題 「物品入札可能なネットオークションの構築」
伊藤 真之	研究表題 「シューティングゲーム」
福島 裕介	研究表題 「遺伝的プログラミングによるエージェントの強化」
本條 翔一	研究表題 「住宅パースにおける3DCGアニメーション」
松崎 雄大	研究課題 「コンタクトプロセスによる鳥インフルエンザの伝播に関する研究」
高橋 一徳	研究表題 「Robocodeによるエージェントの基礎研究」
松尾 一洋	研究表題 「ロケットの飛行」





# 「学生による授業評価」アンケート調査

## —集計結果速報—

情報メディア学部教務委員長 井野 智

### 1. 授業アンケートについて

昨年、本学初の「学生による授業評価」が行われました。対象は、ゼミ、体育実技、およびオムニバス形式の授業を除く平成16年度開講の前期221科目、後期145科目で、それぞれ7月と12月にアンケート調査が実施されました。

回収件数は前期が10,067枚、後期は8,340枚でした。前期分については、集計結果の概要と解説が学内報Vol.32に掲載されています。

ここでは、前後期分をあわせた集計結果を示し、中間評価ともいふべき前期分の集計結果との比較や、前期の報告にはなかった、常勤と非常勤別、必修と選択別、教養と専門別、履修人数別の評価の違いにも触れることにしましょう。

### 2. 集計結果について

前期および後期に回収した全調査票を講義科目(15,699件)と演習科目(2,043件)に分けて集計すると表1～4に示す結果が得られました。

表1は履修の動機、表2～4は質問事項を授業に対する姿勢、授業評価、総合的評価の3つに大別し、細目ごとに肯定的回答がどの程度あったかを百分率(%)で示したものです。評価区分は5段階としました。どの区分を肯定的回答とするかは表中に示したとおりです。例えば、設問「この授業の内容に興味・関心を持つことができた」に対する選択肢を「よくあてはまる：評価点5」「ある程度あてはまる：4」「どちらともいえない：3」「あまりあてはまらない：2」「まったくあてはまらない：1」とし、評価点が5または4の選択肢を肯定的回答としました。

表1～4の数値は講義科目の分、( )内は演習科目の分です。参考までに、前期分を併せて載せましたが、前後期あわせた場合と大差のないことがわかります。細部にわたるコメントは前報に譲り、以下、本報では総合的な評価の最終項目「全体的な満足度」だけを取り上げ、少し詳しく述べることにします。

### 3. 前期と後期の評価の差について

表4によれば、講義科目の「全体的な満足度」(以下「満足度」と略記)の肯定的回答率は、前期

45.8%、前後期46.7%で、前期に比べ後期の評価が良かったことがわかります。集計データによれば、後期のみの肯定的回答率は前期を2.1ポイント上回る47.9%です。

後期の「満足度」が上がったのは、前期の評価を反省した教員の授業改善による成果と考えたいところですが、教員一人ひとりの科目別集計結果を見てみると、前期は受講したが後期はついていけず脱落した多数の学生の影響によるものと思われる。なぜなら、このような学生の「満足度」が高いとは思えないからです。

演習科目の場合、「満足度」の肯定的回答率は前期64.3%とかなり高いのですが、前後期62.0%、後期は前期より5.0ポイント下回る59.3%となったのは、講義科目とは逆に、最後まで諦めずに履修する学生が多いからでしょうか。

### 4. 学生の属性別評価結果について

「満足度」の肯定的回答率の差が5ポイント以上ある属性は次の通りです。

- (1) 所属学科 講義科目の差は微小ながら、演習科目では経営ネットワーク学科が他学科より10ポイント低い。
- (2) 学年別 講義科目では低学年ほど満足度が低く、1年生と4年生の差は19.2ポイント。演習科目では4年生と2年生が高く、満足度最低の1年生と最高の4年生の差は25.8ポイント。
- (3) 性別 講義科目で8.0、演習科目で8.9ポイント、いずれも女性の満足度が高い。
- (4) 必修・選択別 講義科目で12.4、演習科目で9.8ポイント、いずれも選択科目に対する満足度が高い。
- (5) 教養・専門別 講義科目で3.9、演習科目で6.3ポイント、いずれも専門科目に対する満足度が高い。
- (6) 履修人数別 講義科目では履修者数が少ないほど満足度は高く、50人以下と101人以上の差は18.7ポイント。演習科目は履修者数に応じて付けるSA(授業補助学生)効果によるものと思われるが、履修者数が多いほど満足度は高く、50人以下と101人以上の差は17.0ポイント。



## 5. 教員の属性別評価結果について

「満足度」の肯定的回答率の差が5ポイント以上ある属性は次の通りです。

- (1) 年代別 教員の年齢を30代、40代、50代、60代以上に分けると、講義科目に対する満足度は40代が最高で、30代、50代、60代以上の順に満足度は下がる。40代と60代以上の差は13.0ポイント。演習科目では年齢差は微小。
- (2) 専任・非常勤別 講義科目で4.0、演習科目で7.8ポイント、いずれも非常勤教員に対する満足度が高い。

## 6. 今後の課題

授業評価には、授業改善の情報源、授業の評価資料という大きな活用目的があります。そのため

には、十分な分析を多角的に行う必要があることは言うまでもありません。事業報告は年度内にとりいう学内報の編集方針に従い、紙幅と執筆時間の関係から、評価項目は「総合的な満足度」、分析に用いた指標は「肯定的回答率」のみという、皮相的、一面的報告となってしまいました。

他大学と比較して本学の「授業満足度」が低い原因を、とかく学生は教員の所為にし、教員は学生の所為にしがちですが、どちらにも反省すべき課題は多いと思います。学生側には授業に臨む姿勢を正すことを、教員側にはアンケート結果を謙虚に受け止め授業改善に努めることを強く望む次第です。

表1 受講の動機

動 機	前 期	前後期
必修科目だから	27.1 (37.3)	27.8 (33.9)
教員免許等の資格取得に必要なから	2.6 (2.2)	2.5 (2.1)
講義概要(シラバス)を読んで興味を持ったから	16.5 (24.6)	17.8 (24.8)
先輩や友人から勧められたから	1.0 (0.6)	0.9 (0.8)
授業時間割の関係から	20.7 (8.0)	20.5 (9.8)
将来(就職・進学など)に役立ちそうだから	9.5 (16.1)	8.7 (15.6)
単位がとりやすいと思ったから	4.0 (2.3)	4.1 (2.5)
あまり深く考えなかった	13.4 (5.5)	13.5 (6.8)
その他	2.2 (0.8)	1.8 (1.2)
無回答	3.1 (2.5)	2.3 (2.5)

注：数値は講義科目受講動機百分率%、( )内は演習科目

表2 学生の授業に対する姿勢

調査項目	肯定的回答の範囲	前 期	前後期
出席状況	全回出席、1~2回欠席	79.2 (88.3)	76.2 (85.5)
自主学習時間	1時間以上、少しはする	37.3 (51.2)	40.7 (52.3)
意欲的に取り組んだ	取り組んだ、ある程度	45.4 (73.8)	46.2 (72.9)
私語・メール	ほとんどしない、あまりしない	69.0 (70.2)	69.4 (68.1)

表3 授業に対する学生の評価

調査項目	肯定的回答の範囲	前 期	前後期
興味・関心が持てた	よくあてはまる、ある程度あてはまる	47.6 (73.6)	49.3 (72.2)
わかりやすかった	同 上	43.2 (52.5)	44.2 (51.1)
意欲・熱意が感じられた	同 上	56.3 (58.5)	56.9 (56.0)
聞き取りやすかった	同 上	49.5 (54.5)	49.8 (53.7)
意欲を促す工夫があった	同 上	33.3 (46.0)	34.5 (45.7)
テキスト等が有効だった	同 上	41.8 (59.1)	43.1 (58.0)
私語等に指導があった	同 上	45.9 (41.8)	46.2 (40.4)
宿題等が指示されていた	同 上	37.4 (52.8)	39.2 (49.0)
最新の研究成果に触れた	同 上	27.3 (44.8)	30.3 (46.8)
授業目的を獲得できた	同 上	34.9 (60.3)	37.3 (59.1)
社会に出てから役立つ	同 上	41.6 (63.2)	43.6 (62.1)

表4 授業に対する学生の総合的な評価

調査項目	肯定的回答の範囲	前 期	前後期
授業進度	ちょうどよかった	68.8 (62.8)	70.4 (62.5)
難易レベル	同 上	50.8 (46.4)	52.8 (45.8)
担当教員の授業技術	非常に優れている、ある程度優れている	43.7 (54.8)	44.8 (52.7)
全体的な満足度	とても満足、ある程度満足	45.8 (64.3)	46.7 (62.0)

注：表2~4の数値は講義科目に関する肯定的回答の百分率%、( )内は演習科目



## 中国南京大学・王書記一行来学



平成16年11月25日(木)、中国南京大学の王書記一行が来学されました。本学と南京大学が協定を結び友好

協力関係を深める中、1年前の関副学長一行に次ぐ来学です。今回来日されたのは王玉珏 書記、汪平 外国語学院副院長、陳華 外国語学院主任の3名で、目的は理事長・学長への表敬訪問と、本学と南京大学との共同プロジェクト「IT・日本語コース(本学編入学コース)」について、これまでの報告と今後の打合せを行うためです。

本学では、最初に久野学長への表敬訪問が行われ、その後の関係者との打合せでは2004年9月に南京大学のIT・日本語コースに入学した1期生の

近況報告等が行われました。その後は、2年後に来日する予定の同コース学生の生活圏となる江別市や札幌市の生活環境を見て回り、丹念に記録を取っていました。翌日には東京へ移動し、学園本部を訪問して松尾理事長への表敬訪問を行いました。和やかな中にも互いの絆を確認しあう訪問となりました。(総務課)



## カリフォルニア大学サンタクルーズ校・ミラー ディレクター来学



平成16年12月2日(木)～3日(金)、カリフォルニア大学サンタクルーズ校(UCSC)のミラー ディレク

ターが来学しました。今回の来学は本学とカリフォルニア大学との協定が平成17年7月で終了するため、その継続に関する打合せと、毎年本学から派遣している学生の短期語学研修について内容の拡充等を検討するためのものです。他方、本学でも昨年夏にUCSCから客員教授としてジャック・キャロン先生を招へいするなど、相互交流を深めている中での来学となりました。

初日は、まず久野学長への表敬訪問が行われ、歓談の後、交換留学や短期語学研修の方法等につ

いて関係者との打合せが行われました。ここでは様々な建設的な意見が述べられ、将来への展望が期待できる打合せとなりました。翌日は、関係者との打合せの後、これまでにUCSCに交換留学していた学生や短期語学研修を経験した学生と懇談しました。学生はミラー ディレクターに会い留学・研修当時を振り返り、今後の進路や長期留学の夢に意欲を燃やしたようです。

今回のミラー ディレクターの来学によって、今後ますます両校の友好が深まることが期待されます。

(総務課)





# 公開講座「デジタル作品制作講座」作品発表会

総務課係長 吉村 美穂

本学にとって初めての市民向け公開講座「デジタル作品制作講座」全10回が、無事に終了しました。最終日の平成16年11月27日(土)には修了式が行われ、修了証の授与と作品発表が行われました。

講座が始まったばかりの頃は、まだビデオの扱いにも慣れていなかった受講者が、次第にビデオカメラにも慣れ、アングルを考えたり、様々な工夫をこらしたりしながら自分で素材を取りためていきました。撮影の次の作業はその素材を元にした編集です。学生アルバイトの力をかりながらも、自分でコンピュータを駆使し作品として作りあげていきました。映像を切り取ったり、BGMを入れたり、受講者全員が初めての体験だったにもかかわらず、最後はなかなかの作品に仕上がりました。

受講者の家族の方もお見えになった修了式では、まず全員で作品を鑑賞し、審査員をつとめた本学の上原士郎先生が講評を加えました。小・中学生の作品は、興味の対象や目のつけ所がユニークで楽しい作品となり、大人の作品には落ち着いた趣があり、それぞれに見応えがありました。

講評する上原士郎審査員



完成した作品に見入る受講者

全員の作品発表が終わったあと、先生から優秀賞の発表があり、山下直輝君(小5)の「車を訪ねて3千里」が選ばれました。撮影対象への興味と情熱が高く評価されての受賞です。最後に修了証の授与が行われ閉会となりました。

初めての講座実施で、想定外の事態に驚いたり慌てたりしながらの講座でしたが、市民の皆さんの楽しんでいる様子に励まされて最後まで実施できました。参加者の皆さんに誌面をかりてお礼申し上げます。これから次年度以降もこの講座を実施し、市民に親しまれる講座に育てていきたいと思ひます。



# 新カリキュラム紹介

## 経営情報学部

### ■経営情報学部

学部長 林 雄二

企業が抱える問題に情報技術を活用することができる人材、あるいは、ユーザの期待する情報システム開発技術を備えた人材が期待されています。これらはまさに、経営情報学部が目指している人材ですが、常に時代の要請にも対応していかなければなりません。このような目標に向けて教育の充実を図るため、経営情報学部の両学科では、平成17年度からカリキュラムを改正しました(平成17年度1年生から適用)。

#### ・経営ネットワーク学科

学科主任 富士 隆

##### 1. 新カリキュラムの狙い

企業は、グローバル化するとともに、インターネット等情報技術の進展によって地域間の障壁がなくなってきています。このような環境で、企業には、21世紀型の新しいビジネスモデルが求められています。そこには、企業が抱える問題を、情報技術を活用して解決できる人材が不可欠となっています。何故なら、企業は、情報技術を活用することで競争上優位に立てるからです。

知的素養を身につけることで幅広い視野に立って問題を発見し、専門知識を修得することで情報技術の活用方法を見出し、コミュニケーション能力によって解決のための組織的な活動が出来るようになります。図1は、その関連を示しています。

1, 2年生で学ぶ人間、社会、自然等の教養科目を修得することで、知的素養を高めてほしいと思います。

コミュニケーション能力は、実社会では特に重要となります。問題の多くは、自分ひとりではなく組織的に多くの人々の協力を得ながら進めなくてはなりません。そのとき、自分の考えを、きちんと他人に伝えることが必要となるからです。これらの能力は、2年から4年までのゼミ活動を通して修得することができます。

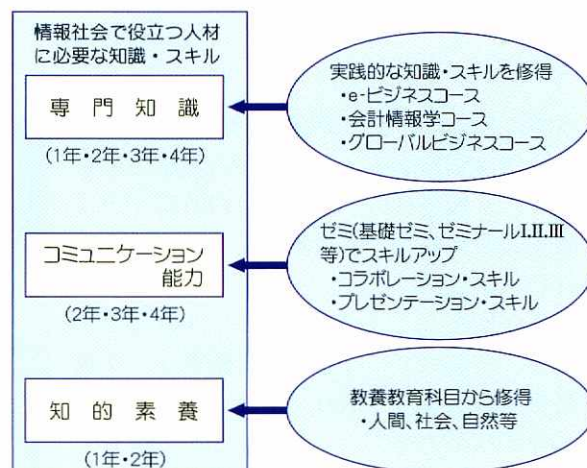


図1. 修得する知識・スキルと履修科目群の関連

専門知識は、e-ビジネスコース、会計情報学コース、グローバルビジネスコースの3つから構成され、各々の専門科目は、1年から学ぶことができます。平成17年度からは、情報システムの開発や営業、証券投資などの分野で実務経験豊富な教員を揃えることで、カリキュラムの内容もより充実し、実践的な知識やスキルを修得することができます。

##### 2. 新カリキュラム改定のポイント

企業が抱える問題を把握すること、すなわちビジネス(経営)の理解なくして情報技術の活用はありえません。そういう意味で、ビジネス(経営)の専門知識とインターネット等の情報技術の専門知識の双方を修得できることが経営ネットワーク学科のカリキュラムの特徴です。

###### (1) e-ビジネス関連科目の充実

経営学科から経営ネットワーク学科の変更にもなって編成された「2003年度入学生～」対応のカリキュラムを大幅に変えるものではありません。下線の科目が新設・変更されることで、e-ビジネスに関しては、他大学にはない充実した内容となっています。

e-ビジネスコースでは、インターネット等の情報技術を活用して、企業が抱える問題解決のためのスキルを身につけます。将来、「楽天」や「ライブドア」のようにインターネットを利用したビジネス(e-ビジネス)を起業することを目標にしてい



る人は、「e-ビジネス基礎Ⅰ・Ⅱ」、「e-ビジネスモデル分析」、「e-ビジネス起業入門」、「ベンチャー起業論」、「サプライチェーンマネジメント」、「コーポレートファイナンスⅠ・Ⅱ」等が関連の深い科目です。また、システムエンジニアとして活躍しようと考えている人は、さらに「Webテクノロジー基礎」、「Webアプリケーション開発Ⅰ・Ⅱ」、「ERPシステム」、「プロジェクトマネジメント」、「マネジメントサイエンスⅠ・Ⅱ」等を学びましょう。

## (2) 類似科目の統廃合による科目の整理

「経営工学」、「経営モデル分析」、「経営情報システム論」を「マネジメントサイエンスⅠ・Ⅱ」に整理統合しました。また、経済学関連の科目で最近のニーズに合わなくなっている科目は廃止しました。その結果として、非常勤教員の担当する科目を大幅に削減することができました。

## ・システム情報学科

学科主任 中村 鎮雄

### 1. 教育目標

システム情報学科では、情報化社会で求められている情報システムの開発に携わるソフトウェア技術者および情報技術を活用して多様な分野で活躍できる人材の育成を目指しています。そのために、情報科学や情報技術と経営科学の基礎を系統的に学び、豊富な演習・実習を通して応用力やコンピュータスキルを身に付け、少人数のゼミナール教育でプレゼンテーションやコミュニケーション能力を養うようにカリキュラムを構成しています。

### 2. 新カリキュラムの特色

#### 1) 2年次までに情報系と経営系の基礎科目を学習：

情報専門基礎科目はIT業界で標準的なIT共通知識体系の知識分野に準じた構成にしました。その結果、2年終了時において基本情報技術者試験や初級システムアドミニストレータ試験に対応できることとなります。

#### 2) 系統的に学習し専門性を高めるコース制：

3・4年次には四つの専門コースを設けました。これは、卒業時まで一つ以上の専門性を身に付けることを狙いとしています。各コースの指定さ

れた科目群から8単位以上を選択必修として履修します。さらに、1・2年次で学習する基礎的な科目と3・4年次の専門科目との関係を明確にして、系統的に学習できるように工夫しています。情報の知識や技術を身に付けるには、基礎をしっかり学習すると共に、系統的な学習が要求されるからです。

#### 3) プログラム言語の学習を強化：

Javaをベースに、プログラム言語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを学び、ネットワーク、データベース、画像処理、CGなどの応用的なプログラミングが学べます。また、オブジェクト指向に基づくプログラミング能力が身に付けられます。

#### 4) ビジネスの理解：

情報システムを構築するときには、ビジネス分野におけるIT活用や経営戦略を理解することが必要となります。このため、関係する多くの経営学系科目を履修できるようになっています。

#### 5) 知識や技術の応用力を養う：

2年後期の情報専門演習、3・4年次のゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、4年次の総合演習と卒業論文を通じて、専門知識の応用力やコミュニケーション能力をしっかり身に付けます。

### 3. 情報専門科目とコース制

3・4年次の専門科目体系は以下に示すように、四つのコース制を取っています。コース制の特色は、どれかのコースを必ず選択し、そのコースの科目群から8単位以上を選択必修として履修する必要がありますということです。この条件を満たしながら、コース内外の科目も自由に履修できます。したがって、専門性を高めると同時に、知識や技術の幅を広げることが可能となっています。

#### ・ソフトウェアデザインコース

ソフトウェアの設計、実装を担うソフトウェア開発技術者の育成を目標にしたコースです。

#### ・ネットワーク・メディアコース

ネットワーク、Webアプリケーション、CG・画像処理に関する専門コースです。

#### ・知能・情報科学コース

人工知能や情報科学的アプローチを通して問題提起、問題解決能力の育成を目指します。

#### ・経営情報システムコース

経営情報システムの利用者の立場に立った情報システムの専門家の育成を目指しています。



## ■情報メディア学部

### ・情報メディア学科

カリキュラム検討委員 齋藤 一

情報メディア学科では、本年3月、第1期生を卒業させるにあたり、カリキュラム検討委員会を設置、教職員や学生の意見はもとより、就職先となる企業の方々のご要望を取り入れながら、カリキュラムの検討・改訂に取り組んで参りました。旧カリキュラムには、主に以下のような検討すべき点がありました。

1. 選択科目が多すぎるため、学生が履修プランを立てにくい。
2. 専門科目（特にコンピュータを用いる実習科目）が3・4年に集中しているため、1・2年において学習目標を見失ってしまう場合がある。

加えて、情報メディア分野の職域（メディア表現・デザイン業界）は、新卒者にとって非常に狭き門であり（現場養成の徒弟制度の伝統、中小企業が多い、即戦力の中途採用者が多い）、結果として就職先ターゲットとして想定される業界（プログラム・ネットワーク関係）がシステム情報学科とかなりオーバーラップしてしまうという問題もありました。

以上を検討した上、情報メディアの専門性を生かした社会に必要とされる人材育成を目指し、学生のモチベーションを引き出しながら、学力を引き上げる教育を実現するために、主に以下の点についてカリキュラムの改訂を行いました。

1. 専門知識を確実に身につけさせるための適切な必修科目を1・2年次に配置
2. コンピュータを用いた専門性の高い実習科目を1年次から配置
3. ゼミナールなどの少人数教育科目の増強
4. シームレスな教育の実現（科目間の内容の連携を強化）

これらの改訂に伴い、情報表現に秀でたマルチメディアコンテンツ開発のスペシャリストを育成する「メディア表現コース」、デザインの基本を学んだシステム技術者を育成する「メディア技術コース」という2つのコースを設けました。

#### ・メディア表現コース

メディア表現コースでは、高度なアプリケーションソフトウェアの使い方だけではなく、文章表現法や色彩などの表現に必要な知識を幅広く学習し、さらに画像処理やコンピュータグラフィックス、デジタルサウンドおよび映像に関する表現技法を学ぶことができます。また、モーションキャプチャーや3次元デジタイザーなどの本学の設備を使って、コンピュータを高度に活用した情報表現を身につけることもできます。

#### メディア表現コースの主な科目

Webデザイン演習Ⅰ・Ⅱ、色彩デザイン、映像デザイン論・演習、音声情報処理、デジタルサウンド、コンピュータグラフィックス論Ⅰ・Ⅱ

#### ・メディア技術コース

メディア技術コースでは、使いやすいユーザーインターフェースなどのデザインの基本を学んだ上で、セキュリティを考慮したネットワークプログラミング技術や電子商取引に代表されるWebアプリケーションの設計・開発技術、コンピュータの周辺機器の制御技術など、IT業界の最前線で求められている最新のメディア技術を学ぶことができます。

#### メディア技術コースの主な科目

プログラミング演習Ⅰ・Ⅱ、オブジェクト指向演習Ⅰ・Ⅱ、デジタル伝送基礎、インターネット技術論、広域デジタルネットワーク、インターネットセキュリティ

更に、新カリキュラムは、情報処理やコンピュータグラフィックス関連の資格（基本情報処理技術者、初級システムアドミニストレータ、CG検定など）にも対応しており、このようなIT社会を支えるために必要な表現方法や技術を学ぶことができます。

#### ・主な資格対策科目

プログラミング基礎演習、コンピュータ基礎論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、マルチメディア入門、情報メディア演習Ⅰ・Ⅱ、一般情報処理演習

情報メディア学科では、今後も社会のニーズに対応した教育を目標に様々な改善を実施して参ります。今後とも皆様のご支援とご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。



# ビジネスプレゼンテーションコンテスト 2004

経営ネットワーク学科 ビジネスプレコンTF

平成17年2月17日、学長室において「ビジネスプレゼンテーションコンテスト2004」（以下、ビジネスプレコン）の表彰式がおこなわれた。最優秀賞として、「ビジネスプラン部門」から、経営ネットワーク学科1年、竹元祥君「エコファンド」、奨励賞として、「アイデア部門」から、情報学科4年、阿部涼一君「中間業者を挟まない新しい賃貸契約」が選ばれ、久野光朗学長から、記念のレリーフと副賞が授与された。表彰式では、中居聡士事務局長が見まもるなか、審査委員長、富士隆教授から、受賞した竹元、阿部両名のビジネスプランに対する審査委員会の総評が説明されたのち、久野学長から両名に対して、力強い激励の言葉がおくられた。

表彰後、久野学長、富士教授、中居事務局長と懇談した竹元君は、学長からの応募の動機についての問いかけに対して、ビジネスプラン作成は本学入学の目的の延長線上にあると回答した。一方、阿部君は、中居事務局長からのビジネスプラン実現への期待の言葉に対して、来年度の本学大学院進学後、応募プランの精度を高め、将来のビジネスへと結びつけていきたいという抱負が語られた。

「ビジネスプレゼンテーションコンテスト2004」は、学生のビジョン構築能力、シナリオ策定能力、エネルギー編集能力、そして、コミュニケーション能力の養成を目的として、経営ネットワーク学科主任、富士教授のイニシアチブのもと、坂本、

向原、谷口でTFを組織し、そこで練られた原案をもとに、経営ネットワーク学科で企画、立案、実施された。ビジネスプレ



コンの究極の目的は、学生が、これからの人生でなんらかの課題に直面したとき、自らがおかれているコンテキストを的確に解釈し、それを解決する方策を自らが創り出す能力を培ってもらうための「場」の提供である。すなわち、“機”をみて“敏”に応じる能力の育成である。

竹元君の「エコファンド」は、企業のはたすべき社会的責任に着目し、信頼性が21世紀の企業の重要な資産であるとの認識から、環境志向型企業の成長可能性と投資ビジネスを結びつけたビジネスプランである。阿部君の「中間業者を挟まない新しい賃貸契約」は、従来の賃貸ビジネスに新たな流通チャネルの導入を模索したe-ビジネスの提案である。両名のビジネスプランは、これまでの日本にはなかった新たな発想にもとづいており、ビジネスの実現可能性を十分に感じさせてくれる内容だった。そして、審査にあたった経営ネットワーク学科スタッフをまえにしておこなわれたプレゼンテーション、ならびに、質疑応答での両名の受け応えには説得力があり、いずれも評価に値すると判断された。

経営ネットワーク学科では、学生の能力開発サポートを目的とした今回の試みを試金石とし、これからも、なんらかのかたちで、学生の自己研鑽のための場を提供したいと考えている。





# e-Learning「無限大キャンパス」のご紹介

通信教育部では平成15年度の後期より本格的にe-Learning(インターネットメディア授業)を開始し、16年度後期には10科目20単位を開講しました。来年度はさらに6科目14単位を追加し、併せて16科目34単位を開講する予定です。

本学のインターネットメディア授業の特色は、自宅での学習を目的に、文字、音声、静止画、動画などといった多彩な表現方法を統合したマルチメディア教材となっている点です。また、印刷授業の補助教材、学習者間の情報交換の場でもある

BBSなども同時に提供しています。

インターネットメディア授業での学習は、授業映像の視聴並びに単元毎にある確認問題の解答及び解説等を中心に学習が進み、さらには電子掲示板や電子メールなどによる質問、意見交換も可能となっています。また、これまで自己管理が難しかった学習スケジュールをWeb上で管理でき、指標となる学習スケジュールも提示されるため、個人の予定やペースに合わせた学習が可能となっています。

## (1)開講科目一覧

科目名	前期	後期	担当教員	備考
オペレーティングシステム基礎論	○		高井 昌彰	17年度新規科目
プログラミング言語基礎	○		外山 清高	〃
コミュニケーション概論	○	○	恵藤 健二	〃
システム設計演習		○	森澤 好臣	〃
コンピュータアーキテクチャ		○	宮永 喜一	〃
簿記原理応用論		○	長井 敏行	〃
財務会計学基礎論	○		長井 敏行	16年度より開講
情報リテラシー	○	○	高井 那美	〃
コンピュータ	○	○	豊田 規人	〃
初級中国語	○	○	田中 英夫	〃
教育心理学	○	○	石井 詩都夫	〃
英語Ⅳ(中級英会話)	○	○	サイモン・ソーラ	〃
ネットワークシステム各論		○	坂上 修二	〃
デジタル画像概論	○		高井 那美	15年度より開講
英語Ⅱ(初級英会話)	○	○	サイモン・ソーラ	〃
物質の物理		○	穴田 有一	〃

※コンテンツはそれぞれ必要な改修を加えつつ、5年サイクルで新規に作成する予定です。





(2) 学習の流れ

- ・インターネットメディア授業を履修登録
  - インターネットメディア授業で開講がある科目をチェックし、必要な科目を履修登録します。
- ・試験期間内に公開される一部の単元を受講
  - 試験期間中は一部の単元（大体4単元程度）が試験できるので、映像の試験や確認問題の解答などで授業内容を確認することが可能です。
- ・試験の結果を基にインターネットメディア授業の受講を申込み
  - インターネットメディア授業以外に印刷授業でも開講されている科目については、希望により印刷授業に変更することも可能です。
- ・単元が随時公開されるので本格的に受講開始
  - ただし、過年度に製作された科目については受講申し込み締め切り後、全単元が公開となりますので、公開待ちで学習が進まないといったことはありません。
- ・掲示板・e-mailを利用して学習を進める
  - 科目毎にBBSがあるので、どんなQ&Aが

出ているのかなどを一目で確認することができます。

- ・受講期間内に必要な単元数を受講する
  - 面接授業などの「出席」に該当するもので、全公開単元数の約6割以上を受講することで受験資格が得られます。
- ・科目試験を受験する
  - 通常の印刷授業科目試験と同時に筆記試験が行われます。ただし「情報リテラシー」については在宅で試験を実施しています。

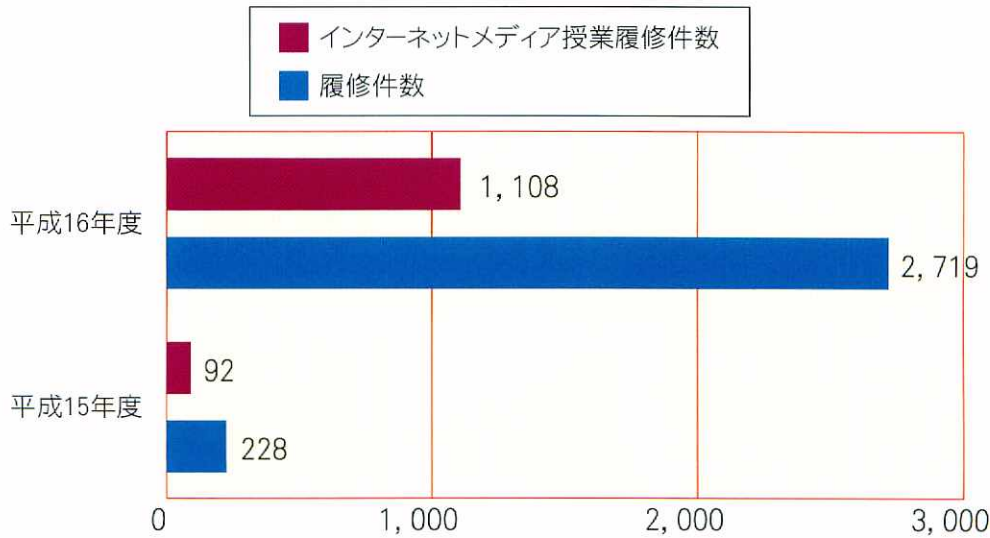
以下のアドレスから通信教育部の学生ではなくとも、体験学習することができます。

<http://mugendai.do-johodai.ac.jp/~mugendai/>

※全部半角英数です。

- ①TOPページより「無限大キャンパス体験」ボタンをクリック
- ②「無限大キャンパス体験はこちら」ボタンをクリック
- ③「ユーザー名(U)」と「パスワード(P)」にそれぞれ guest と半角で入力し体験受講をスタートする

(3)インターネットメディア授業履修件数の推移



(通信教育部)



## 「第4回 北海道ふるさとCM大賞」技術賞受賞

### 「紅葉とエゾリス」～浦臼神社の森～

情報メディア学部3年・上原ゼミ 小沢多美子



ふるさとCM大賞に北海道情報大学から2回目の応募をし技術賞を受賞しました。これは私たちの

住むふるさと、「北海道」の魅力映像化し、放送や新聞などを通じて多くの人々に伝える「ふるさとCM」作品(1分以内の作品)を発表するものです。今年は道内各地から154本の作品が応募され、その中の20本が全道審査会出場作品に選ばれました。そして、3月26日「かでの2.7ホール」にて、厳正な審査の上、入賞が決まりました。

私たちはテーマを“エゾリス”に決め、「わがふるさとの自然」部門に応募しました。撮影はゼミ生全員で行うと決めていたので、全員の配置を決めるため数人で撮影を兼ねた下見に行ったのですが、なんと午前3時頃家を出発。寝ているのか起きていないかわからない中、浦臼町へ向かいました。「道の駅つるぬま」の隣にあるポーっとしてい

たら通り過ぎてしまいそうな狭い道に入っていくと浦臼神社へと続く森があります。森は台風のせいであっという間に荒れてしまいましたが、鳥やトンボがたくさんいて、とても気持ちのいいところです。その日エゾリスを見たのはほんの数秒で、撮影したのは風景だけでした。全員での撮影の日、まだ薄暗く寒い中機材を設置して準備万端の状態待ちでしたが…エゾリスが出てこない。やっと撮影できるチャンスが来たのは、帰る準備をし始めた頃でした。

様々な角度から撮影したものを後で見ると、とてもかわいらしかったのですが、これだけでは一つの作品を作ることが出来なかったので悩んでいました。

ところがなんと後日、菊田君が椅子まで買って一人で撮影をしに行ってくれていて、そこにはすばやいらすの動きが映し出されていました。

その後も何度も撮影しに行ってくれたおかげでやっと1つの作品を作ることが出来ました。みんなで作品を作り上げてきた時間は、とても貴重な経験になりました。来年度も4月から新3年生になるゼミ生を迎え、よりよい作品づくりに、情報大より全国に向けて、北海道の魅力を情報発信していきたいと考えています。





放送予定

4月3日(日) 16:30~17:59

NHK BS-2(全国放送)

5月1日(日) 16:30~17:59

NHK総合テレビ(全道放送)

## 映像サークルA

### 制作者たちの一言コメント

キクタ：自らの実力のなさを実感。おかげで何度も現地に通うことになりました。もうリスは一生分見た気がします。

ホソカワ：リスが出てくるも出てこないも運まかせ…。生き物相手に撮影することの難しさを痛感しました。ただリスが出てきた感動は一塩。良い経験になりました。

コザワ：朝早くに撮影しに行ったので、半分寝ぼけながらでしたが、こごえるような寒さの中リスを見たときは感動しました。



タニ：ゼミの時間、何気なくゼミ室に行ったとき、教室には誰もいなくて、学校にリスが現れたのでみんなで撮影に向かっていった…というコトがあって、リスの気まぐれにはかなり振り回されました(笑)。

クガ：朝寒い中で撮影している時より、少し陽が登ってあたたかくなってからリスが姿を現してきたのには苦笑い。やっぱりあったかくなると外には出たくないなあ…ト、妙に納得。

ウエダ：リスでなさすぎ。

アオヤマ：参加できなかったのがつらかったです(TT)。

オオシマ：私も参加できず何もできなかったのが辛いことです。



タムラ：朝の4時に学校を出発して、6時位に現地へ行ったけどリスが出ずにずっと待っていたのが辛かった。でも7時位にリスが出てきたのでよかったです。

ヨシムラ：早朝に起き物事に慣れていなく、現地に着くと、かじかむ手でカメラ設置、そして、常に動き回るリスを映す事に対して大変苦労しました。

フクシマ：朝の寒い時間から太陽の昇る時間までの撮影でしたが辛かった分、やりがいがありました。

ヒノキ：いままでこんなに早起きしたことはありません。撮影対象が自然だと大変です。でもその分リス以外にも空や山や木の美しい姿が見れてとても新鮮な気持ちになりました。





向原ゼミは、昨年度はじめて卒業生を出したとても若い(?)ゼミです。ゼミでは主に「Java」というプログラムを勉強しています。実際、今年のゼミ生の半分はソフトウェア関連業に就職予定なのですが、プログラムのゼミというわけじゃありません。

今年度の4年生のゼミ論のテーマを見ますと、『Javaでゲームを作ろう』というテーマがある一方で、『FA制度について』、『CVS業界の現状と今後の展望』、『三菱リコール問題』…などと、バラバラです。正直言うと、「こんなんでいいのかな?」と思うこともないわけじゃないんですけどね(笑)。でも、どんなテーマでもいいから、(1)一所懸命取り組み、(2)自分なりに問題を整理し、(3)資料を作成し、(4)分かりやすい発表をすることが重要だと思っています。ゼミの中では、(5)その発表をもとに教員や他の仲間たちと議論することで、また次の発表につなぐことができます。うちのゼミは(5)がちょっと苦手かもしれません(悲)。どんなに先進的なテーマを扱ったとしても、いつかは陳腐化してしまうものです。でも、この(1)

～(5)のプロセスをこなす能力は廃れませんし、これこそが学生の皆さんが社会に出たときに一番役に立つスキルと信じています。それで、いまのところ「何でもあり」のゼミにしています。

ちなみに教員の専門は「オペレーションズリサーチ(通称OR)」というもので、現実世界の問題を数学モデルで表現し、その解き方や意思決定支援に役立てる方法を研究するものです。…でも、こういう話をして、ゼミの応募者がゼロになったという苦い経験があるものですから、ゼミではそういう話をしたことがありません(苦笑)。誰か「やってみよう!」と手を挙げるひとはいないかな?

さーて、来年度の4年生は、どんなテーマに取り組むでしょうか?楽しみのような、怖いような(笑)。



## ゼミ 紹介

### 向原ゼミ

教員 向原 強

### 斎藤一ゼミ

情報メディア学科 4年・小笠原有正 / 3年・五十嵐孝幸

斎藤一ゼミでは、「ITを使って何かやろう!」をスローガンに色々なことにチャレンジしています。中でも「観光」と「教育」を2大テーマとして研究しています。

「観光」では、野外彫刻などの芸術関連コンテンツと密接に結びついた新しいツーリズム(アートツーリズム)を支援するコミュニティWebの構築などを行っています。私たちの研究が北海道観光を盛り上げる糸口になれるよう日々努力しています。

「教育」では、新しい時代を築く人材育成につながるITの教育・教材の実現を目指して、eラーニングで利用可能な独学を支援する教材の設計などを研究しています。



ゼミ生それぞれにテーマは決まっていますが、担当の枠を超えて協力し、目標に向かって楽しく研究しています。蒼天



祭での研究内容の展示の他、学外の研究会にも積極的に参加しています。また、体育祭への参加や通称「ジンバ」と呼ばれるレクリエーションなどイベントが盛り沢山です。ゼミのメンバーは各々強烈な個性を内に秘め、時に友として、また、ライバルとしてお互いを高め合い日々成長しています。

とてもアットホームな雰囲気の中、今日も研究室に笑い声が響くのでした。



# 課外活動団体紹介 (平成17年度)

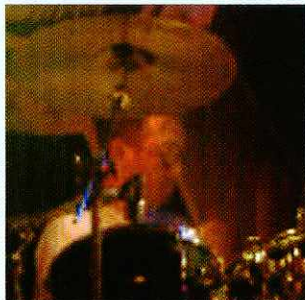
平成17年4月1日現在

		団 体 名	顧 問 教 員
体育系クラブ	1	硬式テニス部	向 原 強
	2	男子バスケットボール部	山 本 哲 二
	3	硬式野球部	浜 淵 久 志
	4	バドミントン部	野 澤 讓 治
	5	サッカー部	竹 内 典 彦
	6	卓球部	前 田 隆
	7	アウトドア部	浜 淵 久 志
	8	軟式野球部	梅 津 真
	9	スノーボード部	サイモン・ソーラ
文化系クラブ	10	アートクラブ	田 中 英 夫
	11	C O C (Computer Operating Club)	外 山 清 高
	12	軽音楽部	松 井 伸 也
	13	園芸部	浜 淵 久 志
	14	囲碁部	石 井 津 勝 真
同好会	15	イベントサークル	加 納 邦 光
	16	ビリヤードクラブ	菅 原 有 道 出 人
	17	演 儘 (演劇サークル)	棚 橋 二 朗
	18	格闘技サークル	斉 藤 一
	19	ストリートダンスサークル	谷 口 文 威
	20	ボランティアサークル	穴 田 有 一
	21	模型アート倶楽部	野 澤 讓 治
	22	映像サークル	上 原 士 郎
	23	コミュニケーションデザイン	サイモン・ソーラ
	24	ダブルダッチ	加 納 邦 光
	25	吹奏楽同好会	齋 藤 康 彦
	26	旅行コミュニケーションサークル	長 井 敏 行
	27	バレーボール同好会	田 中 英 夫
	28	E S S (English Speaking Society)	チャールズ・マックラーティ
	29	フットサル同好会	吉 田 迪 弘



経営情報学部経営学科 3期生 大西ゼミ

丸橋 正和



## 趣味も仕事のうち

みなさんこんにちは。

私は第3期卒業生で、現在は大学で学んだことは全く関係の無い仕事についています。

就職して10年、世間はアメリカ型の犯罪が増え、隣人すらも信用できないような殺伐とした社会でみなさんも仕事をしていることかとおもいます。

さて、冒頭から暗い話となってしまいましたが、私は、そんな世の中でも自分なりに楽しく生きて行く力を持ってもらいたいと思い、この記事の依頼を受けました。

皆さんは趣味を持っていますか？ 私は、たとえ、仕事生きがい！と思っている人でも、仕事がなくなるとどうなるかを考えたとき、趣味は大事だと思います。

私の趣味はありがちですが、「音楽」です。しかし、聞くのではなく演奏するほうで、ドラムを担当しています。昔から音楽は好きで、友達が高校のときドラムを買い、その家に通ううちにドラムの魅力にとりつかれ、バンドをやりたいと思いつけた結果、今は仕事の傍らオリジナル曲を作り、CD制作などもして充実した趣味生活を送っています。人には、天職と適職があり、自分の能力が十分発揮できる職が適職、自分がやりたいと思いつづけ、別の形で職として実現するのが天職だと思います。

この世の中、天職と適職が一致する人が多いとは思えませんが、逆に言うと、天職と適職が違ったほうが、人生を楽しめるような気がします。

みなさんも、趣味も仕事のうちと思えるくらい打ち込めるものを見つけてもらえるといいなと思います。

もしよければ、私たちの音楽を聴いて見てください。

HP address

[http://homepage.mac.com/ricks\\_/index.html](http://homepage.mac.com/ricks_/index.html)

経営情報学部情報学科 10期生 高井ゼミ

田代 智志



## 最近の日本人について思うこと

大層なタイトルにて、二十数年しか生きていない若造が語るのも憚られる様な感もありますが、これまでの人生にて日々の生活の中で思うところ、感じるところについて書き綴りたいと考えております。

物が豊かになり、飢えという言葉が聞かなくなった昨今の日本。戦後敗戦からの急成長は先人たちの努力の結果とも言えるでしょう。しかし、昔(といってもほんの数十年前)の日本人に比べ、今の日本人というものは本当に弱くなってしまったと考えざるを得ない部分が多々見受けられます。今の日本人に昔の日本人ほどの「強さ」というものがあれば、不況が十数年も続くはずも無く、数年の後に回復し好景気へと再び転じるはずと考えられます。

私も日本人であるので、日本人のことを言えるのかという立場ではありますが、日本人の覇気は弱いと思わざるを得ません。既得権に縋りつき、自らの保身のみを考える。昔の日本人は、特に敗戦後の日本人は何も無いところから復興のために努力し、何事にも全力で向かっていくという姿勢により今の日本の基礎を築いてきました。今の日本を支えている日本人は、その上に胡坐をかいているだけと言わざるを得ないでしょう。

何故、日本人は弱くなったのか。それは、「戦う」ということを忘れてしまったからではないでしょうか。昔の日本人には、戦う姿勢・気骨・根性・精神力といったものがあつたように思います。やられたらやり返す、向かってくるものは全力で叩き潰す。今の日本人には、そのような姿勢は無いといって良いと思います。

今後、日本人に必要なのは意識の改革、「強さ」を持つことではないかと考えます。郵政民営化よりも、これまでの常識・秩序・暗黙のルール等といった「甘い考え方」を排除し、「強さ」を持てるような「意識の改革」というものがまず初めに必要ではないかと考えます。



# 平成16年度卒業生の就職活動を振り返って

学生サポートセンター事務室係長 瀧澤 浩基

平成16年度卒業生の就職状況(平成17年3月30日現在)は以下の表のとおりです。平成16年度は情報メディア学部の一学期が卒業年度を迎えたことにより、就職希望者数が今までの倍近くになりました。

日本経済は回復の兆しが見えるものの、就職環境は依然として厳しい状況が続いております。そのような中で、本学においては昨年度以上の96.1%と道内でもトップクラスの非常に高い内定率を得ることができたのは、教職員が一丸となって指導してきたことはもちろん、何と云っても学生の皆さんが努力した賜であると思います。特に一学期生ということで心配された情報メディア学部については、高い内定率を得ることができ、この流れを壊さないように努力していきたいものです。



写真：平成16年度学位記授与式から(上下とも)

4年生の皆さんは、厳しい就職活動が続くと思いますが、今一度気持ちを引き締めて臨んでもら

いたいと思います。新入生、2年生、3年生は就職活動はまだ先のことと考えず、少しでも早い時期から将来の目標を定め、その目標を達成するためにはどのような能力を身につけるべきか考えることが大事で



す。現在、企業は少数厳選採用により優秀な人材を確保し、経営体質を強化しようとしています。企業は学歴や出身大学を選考の基準とはせず、個人の能力で評価しています。その能力とは、情報処理能力ばかりではなく、コミュニケーション能力や論理的思考力等、一朝一夕で身に付くものではありません。学生生活や家庭生活において、時間をかけて身につける必要があります。

本学では、学生生活や就職等の相談窓口として学生サポートセンターがあります。何か困ったこと、分からないことがありましたら何でも構いませんので、いつでも相談に来てください。

区 分	経営学科	情報学科	情報メディア学科	全 体
在籍者数	99	135	171	405
卒業予定者数	88	115	160	363
就職希望者数	66	93	126	285
内定者数	64	85	125	274
内定率	97.0%	91.4%	99.2%	96.1%



## ◆◆ 教職員の動向 ◆◆

## 《教員》

3月31日付

(任期満了) 学長	久野 光朗	
(定年退職) 教授	井野 智	(4月1日付学長就任予定)
教授	石井詩都夫	(4月1日付特任教授就任予定)
教授	宇都宮芳明	
教授	吉田 勉弘	(4月1日付特任教授就任予定)
教授	若林 久二	(4月1日付特任教授就任予定)
(退職) 教授	伊藤佐智子	
特任教授	尾崎 弘之	

## 《職員》

(退任) 事務局長	中島 安敬	(法人事務局長)
(任期満了) 学生サポートセンター事務室長	中島 章三	

## ◆◆ 11月～3月主要行事 ◆◆

## ◇法人本部◇

11月29日(月)	高文連弁論大会
12月15日(水)～17日(金)	監査法人トーマツ 期中監査
2月 7日(月)	全道高文連英語弁論大会
2月22日(火)	理事会
3月 2日(水)～ 4日(金)	監査法人トーマツ 期末監査
3月30日(火)	理事会

## ◇大学院◇

11月30日(火)	研究科委員会
12月24日(金)	研究科委員会
1月11日(火)	学位論文申請締め切り
1月18日(火)	研究科委員会
2月12日(土)	大学院入学試験(2次募集)
2月18日(金)	研究科委員会
2月24日(木)	学位論文公開発表会
3月 1日(火)	研究科委員会
3月24日(木)	研究科委員会

## ◇大学◇

11月 5日(金)	情報メディア学部教授会
6日(土)	第7回 公開講座「デジタル作品作製講座」
8日(月)	職員研修会「個人情報保護法とプライバシーマーク制度の概要」
12日(金)	経営情報学部教授会
13日(土)	第8回 公開講座「デジタル作品作製講座」
20日(日)	第9回 公開講座「デジタル作品作製講座」
21日(日)	推薦入学試験
26日(金)	全学教授会
27日(土)	公開講座「デジタル作品作製講座」作品発表会
12月 3日(金)	大野公男前学長叙勲祝賀会
10日(金)	全学教授会
17日(金)	情報メディア学部教授会
18日(土)	情報メディア学部3年次編入学試験(2次募集)
24日(金)	経営情報学部教授会
29日(水)～ 1月 3日(月)	年末年始の休日
1月 6日(木)～ 8日(土)	補講期間
14日(金)	経営情報学部教授会
15日(土)～16日(日)	大学入学選抜大学入試センター試験
17日(月)	教職員研修会「個人情報保護法はなぜ必要か」 「個人情報保護法を考慮した運用ルールを作成するには」 後期授業終了
18日(火)～25日(火)	後期定期試験
20日(木)	大学説明会(京王プラザホテル札幌)
21日(金)	情報メディア学部教授会
23日(日)	特別AO入学試験(A日程) 特別入学試験
28日(金)	全学教授会
2月 2日(水)～ 3日(木)	一般1期入学試験
7日(月)～ 9日(水)	後期追試験
10日(木)	経営情報学部教授会
17日(木)～19日(土)	後期再試験
18日(金)	情報メディア学部教授会
21日(月)	大学説明会(東京)
25日(金)	全学教授会
3月 7日(月)	臨時経営情報学部教授会

臨時情報メディア学部教授会  
個人情報保護法に関する研修会

8日(火) 一般2期入学試験

卒業生発表

12日(土) 情報メディア学部3年次編入学試験(3次募集)

15日(火) 経営情報学部教授会

情報メディア学部教授会

18日(金) 学位記授与式

25日(金) 全学教授会

23日(日) 特別AO入学試験(B日程)

## ◇通信教育部◇

11月 5日(金)～11月 7日(日)	後期地方スクーリング(1)	名古屋・北九州
11月19日(金)～11月21日(日)	後期地方スクーリング(1)	札幌
11月12日(金)～11月14日(日)	後期地方スクーリング(2)	新潟
11月19日(金)	平成17年度春期第2回入学者選考	
11月19日(金)～11月21日(日)	後期地方スクーリング(2)	全国12か所
11月26日(金)～11月28日(日)	後期地方スクーリング(2)	東京
11月26日(金)～11月28日(日)	後期地方スクーリング(3)	福岡
12月 3日(金)～12月 5日(日)	後期地方スクーリング(3)	全国14か所
12月10日(金)～12月12日(日)	後期地方スクーリング(3)	名古屋
12月17日(金)	平成17年度春期第3回入学者選考	
12月21日(金)	鹿児島教育センター大学見学	
12月21日(火)～12月23日(木)	冬期スクーリング(2)	福岡
1月21日(金)	平成17年度春期第4回入学者選考	
1月21日(金)～ 1月23日(日)	冬期スクーリング(1)	札幌、東京、大阪
1月27日(木)～ 1月29日(土)	冬期スクーリング(3)	ニセコ
1月28日(金)～ 1月30日(日)	冬期スクーリング(2)	仙台、名古屋、福岡
2月 3日(木)～ 2月 5日(土)	冬期スクーリング(3)	福岡
2月 4日(金)～ 2月 6日(日)	冬期スクーリング(1)	札幌、東京、大阪
2月18日(金)	平成17年度春期第5回入学者選考	
2月23日(水)	広島教育センター大学見学	
2月28日(月)	北九州教育センター大学見学	
3月18日(金)	平成17年度春期第6回入学者選考	

## ◆◆ 広報活動 ◆◆

&lt;北海道情報大学通信教育部説明会；本学独自&gt;

11月；1会場(新潟)

12月；4会場(福岡、大阪、名古屋、東京)

3月；1会場(東京)

&lt;春期合同入学説明会；私立大学通信教育協会主催&gt;

2月；10会場(名古屋、東京、大阪、仙台、神戸、郡山、札幌、横浜、広島、岡山)

3月；3会場(東京、福岡、新潟)

&lt;進学相談会&gt;

12月；北海道 7会場(千歳、苫小牧、札幌、帯広、釧路、北見、旭川)

1月；北海道 6会場(池田、大樹、網走、紋別、中標津、浦河)

2月；北海道 6会場(八雲、江差、函館、名寄、稚内、枝幸)

3月；北海道 6会場(室蘭、旭川、北見、帯広、釧路、根室)

&lt;高校内進学ガイダンス&gt;

11月；北海道 2校(北星大学附属高校、石狩翔陽高校)

12月；北海道 3校(札幌創成高校、札幌北斗高校、北見柏陽高校、)

青森県 1校(五所川原工業高校)

2月；北海道 1校(浦幌高校)

3月；北海道 1校(虻田高校)

&lt;高校出張授業&gt;

12月13日(月) 鶴川高校

12月16日(木) 岩内高校

&lt;オープンキャンパス&gt;

3月27日(日)

## ◆◆ 主な来学者 ◆◆

11月25日(木) 中華人民共和国 南京大学(王書記 他2名)

12月 1日(水)～ 2日(木) 山陽高校・広島情報専門学校

12月 2日(木) アメリカ合衆国 カリフォルニア大学サンタクルーズ校  
Millerディレクタ

12月 7日(火) 北広島西高校

1月 6日(木)、9日(日)、10日(月) 立命館慶祥高校

2月22日(火) 室蘭工業高校

2月23日(水) 音更高校

2月24日(木) 稚内商工高校

3月14日(月) 札幌工業高校

## 編集後記

学内報を編集していて最近感じることは、格段に記事の量が増えてきたということである。国際交流関係や、学内の様々な改革の取り組みなどが、多くのページを占めるようになってきたためである。喜ばしい事である。ただ、誌面には限りがあるので、すべてというわけにはいかないけれども、可能な限り本学の発展を皆様にお伝えしていきたいと願っている。

(S)